とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐドンキadventure保育園
所在地	東京都大田区山王3－6－3 -5F

1 活動のテーマ

【色】
～どんな色が好き？色を楽しみながら遊んでみよう～

＜テーマの設定理由＞

〈どんな色が好き？〉の歌や〈いろいろバス〉の絵本など色に関する絵本や歌を歌ったり読んだりすると、子どもたちが夢中になりながら歌ったり見たりする姿や様々な色を指さして「は？(これは？)」と色の名称に興味を持つ姿から、テーマを設定していった。

2 活動スケジュール

10月～12月
・カラフルな大型ソフトブロックで遊び、色に興味を持ちながら遊ぶ
・〈どんな色が好き？〉の歌を歌っていく
・色に関する絵本を読み、色の名前を知る
１月～2月
・カラフル輪投げやプレイフルクッション、カラーブロックを使って、色に親しみながら遊ぶ
・色に親しみながら、体を動かして遊ぶ

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

・子どもたちが色や色の名前に興味があるため、〈どんな色がすき？〉の歌を歌う機会を増やす。
・カラフル大型ソフトブロックで好きな色を集めたり、規則的に並べたりしながら遊べるよう、ブロックの数を十分に準備する。
・親子ふれあい会(行事)にて、子どもたちが色と色の名前が一致してきている様子や、色に興味があることを保護者へ共有できるような場を設けた。
・色に更に興味を持つ姿から、大型ソフトブロック以外のカラフルな玩具やマットを準備した。
・色と色の名称が一致してきた児に「〇〇色のマットはどこかな？」と問いかけ、クイズ形式で色に親しめるような遊びを取り入れていった。

4　探究活動の実践

＜活動の内容＞

・〈いろいろバス〉の絵本など色に関する絵本を読むと、繰り返し読んで欲しいと指さしをしたり、自分で絵本をめくりながら「ぴく！(ぴんく！)」と色の名前を話しながら読んでいた。
・保育者が「どんな色が好き？」と問いかけると、知っている色を指差ししたり、「あ、か、！」と発語していた。また、保育者が持っているボールペンにも興味を示し、３色ボールペンをみて「かか(赤)」「あこ(青)」「うお(くろ)」と言う児もおり、色の違いや色の名称が段々とわかるようになり、更に興味が広がっていった。
・色と色の名称が結びつくことで、同じ色のカゴに、同じ色のボールを入れるなどの頭で考えていることを行動にしていくということも出来るようになり、その活動を遊びとして取り入れていくと、子どもたちは何回も繰り返して遊んでいた。
・「〇〇色のマットはどこかな？」と保育者が問いかけると、指定の色のマットの上にのぼったり、輪投げの輪をひっかけたりと色の名称がわかるようになり、体を動かしながら色を使って遊ぶことが出来るようになっていった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

5　振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子どもたちが保育者の持っている物や室内の玩具の中から色に興味を示し、その姿から色に関する活動を進めていったが、子どもたちの色と色の名称を覚えていくスピードが速く、子どもたちの興味関心から広がっていく活動の大切さを改めて感じた。子どもたちは色の名称を覚えると、自分の好きな色は何色か？という好みも出てきており、好きな色の画用紙を選んだり、好きな色の玩具を集めたりといった姿にも繋がってきている。今後も色に対する興味関心は高まっていくと予想されるため、引き続き取り入れていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐドンキadventure保育園
所在地	大田区山王3-6-3メガ・ドンキホーテ大森店

1 活動のテーマ

【音】
～どんな音があるのかな？沢山の音を探してみよう～

＜テーマの設定理由＞

日々の生活の中で、保育者がピアノを弾くと子どもたちが楽しそうに歌っている姿があり、歌うことに興味関心があることからテーマを決定していった。

2 活動スケジュール

〇10月～11月
園内にある様々な楽器の音を聴いたり、実際に鳴らして楽器遊びをする
〇12月
生活発表会(行事)で鈴やカスタネットなどの身近な楽器を使って演奏する
クリスマスコンサートで異年齢児が演奏している姿やプロの奏者が演奏する様子を見る
〇１月
新しい楽器に触れ、様々な音を聴いたり、曲に合わせて演奏する
〇２月
プロの奏者と共に演奏する機会を持ち、異年齢児や保育者の前で発表する

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

・季節の歌や子どもたちの好きな曲を日々取り入れ、音や音楽に親しむ時間を豊富に取り入れていった。
・鈴やカスタネットなど、親しみやすい楽器を準備し、聞くだけでなく鳴らしてみる機会を設けた。
・異年齢児(5歳児)の合奏の様子を見たり、プロの奏者の演奏を見たりと、様々な楽器の音色を知る環境を整えていった。
・楽器の種類を増やし、子どもたちの興味のある楽器に親しみながら、自分たちが演奏するという機会を設けていった。
・演奏する際にプロの奏者とコラボレーションし演奏することで、より興味関心が高まるようにしていった。

4　探究活動の実践

＜活動の内容＞

・朝の会や帰りの会で、季節の歌や子どもたちの好きな歌を多く取り入れていくと、聴くこと、歌うことが楽しくなり、これ歌いたいあれ歌いたいと興味を持っていた。
・生活発表会(行事)で異年齢児が様々な楽器を使って演奏する姿をみて、子どもたちも楽器への興味が高まり、実際に手に取ってスズやカスタネットで演奏出来る機会を設けていくと、音楽に合わせて楽しそうに楽器を鳴らし、保護者の方々の前で演奏して発表することも出来た。
・様々な楽器の音色を聴き、子どもたちは「シャラシャラした音」「シャカシャカの音」「きれいな音」「怖い音」など、音を聞いて感じたことを言葉にしていた。その姿を保育者が表にまとめて掲示していくと、「これ、あたしやった！きれいだった！」と自分がどんな楽器に触れて、どう感じたかを振り返る子どもの姿もあった。
・クリスマスコンサートで初めて見る楽器、初めて聴く音色の経験をし、子どもたちは更に興味関心が広がったり、コンサートのような形で演奏することに興味を持ち、誰かに見てほしいと意欲が高まっていった。
・プロの奏者とのコラボレーションでは、子どもたちはどきどきした表情をしていたり、誰かに見てもらうことが楽しみで笑顔を見せていたりと様々な反応があった。演奏することだけでなく、普段親しめない楽器を目の前で見たり、聴いたりすることが出来た。子どもたちは「おおきかったね！」「ぽんぽんしてたね！」と目を輝かせながら感じたことを保育者や友だちと共有していた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

5　振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・子どもたちが音楽に親しむ機会を多く触れていくことで、子どもたちが歌ったり、聴いたり演奏したりといったことに興味を持ち、その興味を広げ、様々な楽器に親しんでいくことが出来てよかったと感じた。
・プロの奏者とのコラボレーションでは普段とは違った雰囲気となり、子どもたちも特別感を感じ、より一層嬉しさや楽しさに繋がっていたため、良い経験となった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐドンキadventure保育園
所在地	東京都大田区山王3-6-3-5F

1 活動のテーマ

【実験遊び】
～なんで？どうして？やってみよう！の発見～

＜テーマの設定理由＞

子どもたちは風船はどうして飛ぶの？粘土はなんでムニュムニュなの？なんで？どうして？と質問する姿が多く、様々なことに興味関心があり、なんで？どうして？と感じたことを実際に遊びの中に取り入れていくと、更にこうしてみたいああしてみたいと興味関心が広がり、その興味関心が継続して続いている姿からテーマを実験遊びと決めていった。

2 活動スケジュール

〇８月～１２月
日々の生活の中から、子どもたちのどうしてかな？なんでかな？といった姿を見つけ、そのことを遊びの中に取り入れていった
〇１月
子どもたちの興味関心が一番高かった遊びから〈空気に関する実験遊び〉を中心に活動に取り入れた
〇２月
サイエンスショーを見て、空気で物が動いたり、浮いたりする様子をみて、驚きやどうしてだろう？考える経験を重ねる

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

・子どもたちの疑問をすぐに保育の中に取り入れていけるように、様々な素材(寒天や絵の具、ビニール袋、ペットボトル等々)や場所の準備をしていった。
・実験遊びの時間を多く設定し、子どもたちが満足感を得られるように時間設定を行っていった。
・子どもたちの興味が空気に関する遊びが中心となってくると、空気に関する様々な実験遊びを取り入れていった(空気砲、紙コップ風船、ストローで絵を描くなど)
・十分に実験遊びを楽しんだ後には、更に興味関心が広がるようサイエンスショーを行っていった。

4　探究活動の実践

＜活動の内容＞

・ペットボトルの空気砲では空気の力で紙コップが倒れたり、風船が動いたりする様子をみて、どうしてかな？と驚く児が多かった。折り紙をちぎって空気砲の仕組みを目で見られるようにしていくと、より一層興味がわき、「やってみたい！」「すごい！どうして！」と喜びながら実験遊びを楽しんでいた。
・ストローで吹き絵の技法も実験遊びの一つとして取り入れていくと、子どもたちは「うごいた！」「ひろがった！」と興味津々で取り組み、空地の力で物が動く様子を観察していった。
・ペットボトル砲も子どもたちの興味や経験の回数に応じて、大きさを変えていった。大きさを変えることで空気砲の威力が変わり、以前の空気砲との違いに気付いたり、どうして威力が変わったのかということにも興味を持っていた。
・サイエンスショーでは、今まで子どもたちが行ってきた空気に関する実験遊びがあり、風船が回ったり、重さのあるのもが浮いたりする様子をみて、「なんで！！」「どうしてなの！？」と興味津々だった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

どうしてトイレットペーパーの芯は
倒れるんだろう？
何にもないのに、、

おりがみ、どうなるのかな？

吹き絵

ペットボトル空気砲の実験を繰り返し
行った後は、、容器の大きさを変えて
威力の違いもわかるように実遊びを
しました

いつもは落ちてくる
風船が浮いた

見えなくても段々とねらう
コツがわかってきたよ

空気の力で風船が
勝手にくるくる回った

5　振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・子どもたちの疑問や気付きを遊びの中に取り入れていった。子どもの興味関心が高い事柄をすぐに遊びの中に取り入れることが出来たため、子どもたちは「もっと、やりたい」「こうだったらどうなる？」と意欲的に実験遊びを楽しむことが出来た。
・様々な実験遊びを行い、今回は空気に関する実験遊びを中心に行っていったが、今後も子どもたちの様々な疑問や気付きが出てくると予想されるため、他の実験遊びも行っていきたいと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐドンキadventure保育園
所在地	東京都大田区山王3-6-3-5F

1 活動のテーマ

【ピタゴラスイッチ】
～どうやって進む？予想しながら遊んでみよう～

＜テーマの設定理由＞

子どもたちが玩具(木製のブロック)を使って球体を転がす、転がすための道を作って遊ぶ姿があった。繰り返しああしてみたら？こうしてみたらどうなる？と試行錯誤し、玩具だけでなく様々な物を使用して装置を作ってみたいという子どもたちの気持ちがあり、ピタゴラ装置を作って遊ぶ活動をテーマにしていった。

2 活動スケジュール

〇８月～10月
自分のイメージしたことを形にしながら、思い思いのピタゴラ装置を作って遊ぶ
〇１１月～１２月
様々なアイディアや廃材を使いながら、友だちと話し合いながらピタゴラ装置を作って遊ぶ
〇１月～２月
新しいピタゴラの玩具で遊び、友だちと協力して装置を作って遊ぶ

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

・ピタゴラ装置に利用できそうな廃材を準備し、保育室に配置した。
→気付いた子どもたちが、「これを使ったら坂道になりそう」などの子どもたちのひらめきがあった。
・保育室のホワイトボードの壁を使ってダイナミックに遊べるよう、子どもたちが遊ぶ場所の確保を行った。
・園にある玩具や廃材で十分に遊び、子どもたちの興味が更に高まってくると、新しい玩具を準備した。→装置作りが更に複雑になっていった。
・子どもたちのひらめきがイメージが膨らんでくると壁だけでなく、保育室全体を使って遊べるように遊ぶ場所をさらに広げていった。

4　探究活動の実践

＜活動の内容＞

・保育園にある玩具でピタゴラ装置を作って遊んでいたお友だち。「こうしたら、まっすぐ進むのかな？」「あれ？できなかった。どうしてだろう？」「じゃあ、こうしてみようかな？」と試行錯誤しながら夢中になりながら遊んでいた。その様子を見ていた児も興味を持ちはじめ、それぞれ作りたい物を考えて形にしていくことを楽しんでいた。
・玩具では数に限りがあり、子どもたちのしたいことを形にしていくことに難しさがあったが、廃材を準備すると遊びが広がり、「このくらい斜めにしたら早く落ちた！」「まっすぐだと、ころがらないんだよ」と試しながら気付いたことを保育者や友だちに嬉しそうに話す姿があった。
・ひとりでイメージを形にすることを十分に楽しむと、友だちのしていることに興味を持ち、ひとりで装置を作るだけでなく、友だちと一緒により大きな装置を作ることを楽しむようになっていった。
・新しいピタゴラの玩具では壁を使って装置を作った遊びから、机の上や床など遊ぶ場所が広がっていき、ピタゴラ装置もより複雑な形へとなっていった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

5　振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子どもたちのこうしてみたいという気持ちを大切にしながら活動を進めていったが、子どもたちのイメージしたものが形になっていくと、更に子どもたちの興味関心が広がっていた。遊びの中で思った通りにいかなかった時に、「じゃあ、こうしてみよう」と子どもたちに様々なことを試してみようと思う経験はとても大切だと感じた。はじめはひとりでイメージした物を形にするということを楽しむ子どもたちだったが、段々と自分の作った物と友だちが作ったものを繋げていくと、より一層大きな作品になっていくと子どもたちの中で気づきがあり、子どもたち同士で協力して遊ぶ楽しさも感じることが出来ました。友だちと協力する楽しさをピタゴラ装置作りで経験すると、他の活動でもお友だちのことを気にかけたり、一緒に何かをするということを好んだりと、子ども同士に関わりにとってとても良い刺激だったと感じました。今後も遊びや生活の中で自然と育んでいけるような環境を大切にしていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	はぐはぐドンキadventure保育園
所在地	大田区山王3-6-3ドン・キホーテ大森５階

1 活動のテーマ

【動物】
～動物の特徴を捉えてみよう～

＜テーマの設定理由＞

子どもたちが動物に興味を持ち、鳴き声は？何を食べる？などの疑問を感じ、絵本や図鑑で調べるといった姿があった。遊びの中でも動物の真似をして歩いたり、鳴き真似をしたりといった姿もあり、動物への興味関心が高いことからテーマを動物と決めていった。

2 活動スケジュール

〇4月～６月
動物の生態を調べて、調べたことをまとめる
〇１０月
動物園へ遠足へ行き、絵本や図鑑で調べた動物の本物の姿を見る
〇１１月～12月
動物の生態の特徴を考えながら、生活発表会(行事)で劇(ライオンキング)として表現する
〇1月
ライオンキングで演じた動物を本物の劇ではどう表現しているかを調べる
〇２月
ライオンキングの出来を鑑賞し、動物の動きや表現の仕方を知り、改めてライオンキングの劇で感じたことを表現していく

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

・動物に関する絵本や図鑑を準備し、子どもたちが調べやすい環境を整えていった。
・動物への興味が高く、子どもたちと話し合いながら遠足先を動物園と決め、本物の動物を見られるようにしていった。
・生活発表会(行事)の内容を子どもたちが決められるように話し合う場を設けていった。
・動物の生態をどのように表現すると良いかを知るため、劇を見る。

4　探究活動の実践

＜活動の内容＞

・動物の足跡や鳴き声は、何を食べる？等、子どもたちが動物への生態に興味を持ったことを調べていき、調べたことをまとめていった。
→おままごとなどの遊びの中で、調べた動物になりきって遊ぶ姿があり、家の犬はこう歩く、動物園のキリンはこう歩くなど動物の生態の特徴を捉えて遊んでいた。また、調べたことを形にする中で保育者や友だちに見て欲しい、知らせたいという思いが強くなっていった。
・遠足の場所を動物園に設定し、本物の動物を見ることで、どんな動きをしているのか、どんななき声なのかということをより一層詳しく知ることが出来た。
・調べたり、実際に見た動物の動きを生活発表会の劇という場で体全体で表現していった。
→「鳥の羽はこう動かすんだよ」「ゾウはゆっくり歩いてた」と動物園で見た姿を模倣していた。
→劇として動物の動きを表現した後は、他の役もやりたかった、もっと上手に動いてみたいと子どもの意欲が高まっていった。
・子どものもっとやってみたいという気持ちから本物の劇を見られるようにしていった。子どもたちは自分たちが演じた題目と同じ内容の劇を見て「こうやって動いてたよ！」「ドン、ドンって歩いてた！」と更に興味を持ちっていた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

5　振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・自分で調べる、自分で書いてみるといった自分で何かをするという活動が多く、子どもたちの興味関心の高まりや達成感がとても高かったと感じた。また、自分で調べてまとめた後には本物の動物を見る、生活発表会で劇に取り組んだ後には本物の劇を見るといった、本物に触れるという活動があったことで、より子どもたちの興味が広がっていったように感じた。
・保育者が主体となって何かを決めていくのではなく、子どもたちが実際に話し合いながら、次につながる活動の内容や目的を決めていくことで、子どもたちのやってみたいという気持ちが強くなっていった。子ども同士が話し合う場は今後も積極的に取り入れていきたいと思った。